

## 愛知学泉大学 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

### □ライフスタイル学科 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

#### (A)カリキュラムの編成について

##### (A-1)カリキュラム編成の基本方針について

ライフスタイル学科のカリキュラムは、共通科目と専門科目から構成されます。

すべての科目において、グループワークの機会を設定しています。

そして、地域と連携した内容の授業科目を各年次に配置することによって、社会人基礎力・pisa 型学力を育成していきます。

授業形態は、講義・演習・実習の3タイプ用意しています。各科目の関連性を明確化するためにカリキュラムマップを作成しています。

共通科目は、社会的に自立して生きていく上で必要なスキル・リテラシー・教養等を学修するために、家政学部共通科目として編成しています。

共通科目の卒業要件は24単位以上取得することです。

専門科目は、これからの時代の新しいライフスタイルを創造しうる能力を持った生活者および衣・食・住および地域活性のエキスパートを育成するための科目として編成します。また、「中学校、高等学校の教諭（家庭）」の資格も取得可能です。

専門科目の卒業要件は96単位以上を取得することです。

##### (A-2)教養教育プログラムについて

教養教育とは、社会的に自立して生きていく上で必要なスキル・リテラシー・教養等の基礎的・体系的な一般的知識・技能のことです。

これらの科目は家政学部の共通科目と位置づけ、「教養分野」「保健体育分野」「外国語分野」の3分野で編成しています。

①「教養分野」では、自然科学・人文科学・社会科学に関する基礎的な知識・技能を学修する。

②「保健体育分野」では、講義と実技を通して身体と健康に関する基礎的な知識・技能を学修する。

③「外国語分野」では、異文化を理解する上で必要な基礎的な知識・技能を学修する。

##### (A-3)専門教育プログラムについて

専門教育プログラムは、「ライフスタイル学科基幹科目群」を基軸に「デザイン（空間・情報の分野）」「食品開発・マネジメントの分野」「ビジネス・地域活性の分野」の3分野で編成されています。

これらの専門科目群により、生活に関する専門的知識・技能を獲得し、それを活用しながら、自らを含む地域社会の課題を解決する方策を実践的に学修します。

##### ①「ライフスタイル学基幹科目群」について

この科目群では、生活に対する基本的視座を涵養するためにライフスタイル学基礎講座と国内研修旅行を、生活に関する基礎的な知識を獲得するために、衣・食・住の各領域の概論（衣生活論・食生活論・住生活論）を必修科目として置く。また、4年間の学修の集大成となる卒業研究もこれに含む。

##### ②「デザイン（空間・情報の分野）」について

この分野では、身体の近接環境である衣服やインテリアおよび情報環境をデザインするために必要な知識・技能を学修する。

### ③「食品開発・マネジメントの分野」について

この分野では、食品開発に必要な食文化、食品、栄養、調理に関する知識・技能を学修する。

### ④「ビジネス・地域活性の分野」について

この分野では、地域の問題を収集、分析、整理して課題解決の提案をするために必要な知識・技能を学修する。

⑤各分野には、学修内容をより実践的に応用し、新しいライフスタイルをデザインするための素地を養うためにPBL型の科目「スタジオA（空間・情報・デザイン）,B（食開発）,C（地域活性）を置く。

#### (A-4)初年次教育プログラムについて

初年次教育として「、ライフスタイル学演習Ⅰ,Ⅱ」「未来へつなぐアウトリーチスタートアップ」及び「未来へつなぐアウトリーチ」を配置しています。

「ライフスタイル学演習Ⅰ,Ⅱ」では、「リテラシー能力」の向上に焦点を当て、教育目標の基盤を育成しています。

「未来へつなぐアウトリーチⅠ」では、PDCA（P:計画、D:実施、C:チェック、A:修正）サイクルを活用して、家政学の核となる衣・食・住・消費活動などの生活環境の視点から地域の課題を発見し、その課題解決を目指します。

これらの科目では、他者との関わりを重視しながら以下の能力を育成していきます。

①生活における他者との関わり的重要性を知る。

②「見た」・「聞いた」・「読んだ」内容を論理的に表現する力を育成する。

③地域社会の課題を発見し、他者と協調し、その課題解決に取り組むことができる人間となるための基礎的な力を育成する。

#### (A-5)キャリア教育プログラムについて

卒業後の進路を保障するために、以下の3点に焦点を当てたインターンシップの実施と就職支援プログラムとして「インターンシップ論、インターンシップ、キャリアデザイン講座」を配置しています。

①インターンシップを通して、仕事の現場を体験的に確認し、組織の一員としての使命感、責任感を育成します。

②適性検査、自己分析を行い、自分に合った進路の選択を考える能力を育成します。

③様々な業種・職種で活躍する社会人及び先輩の講話を聴き、自分の能力を社会貢献につなげていくための能力の適格性、開発方法、心構えなどを育成します。

なお、中学校、高等学校教諭を目指す学生に対しては教職課程委員会と連携して「教員採用試験対策講座」を開設しています。

#### (A-6)リメディアル教育プログラムについて

入学時にスクリーニングテストを行い、学力が不足していると判断された学生に対しては補習を実施します。

公開講座「日本語を磨く、自分を磨く」において、日本語表現の基礎を学び直します。

#### (A-7)教職課程教育プログラムについて

教育の現場で必要とする知識・技能を修得して、中学校、高等学校の教諭（家庭）免許が取得できるカリキュラムを編成しています。

授業方法は、以下の3点に焦点を当てて、講義に加え事例研究・模擬授業・集団討議を行います。

①教育課程、指導法について学びながら、学校における教育の意義や中学校、高等学校教諭の職務内容を理解する。

②模擬授業を通して、教育指導の実践能力を養う。

③教育実習を通して、指導の重要性を体験的に確認し、中学校、高等学校の教諭としての使命感、責任感を養う。

#### (B)カリキュラムの実施について

チームティーチング形式の授業を初年次から配置しています。複数の教員が関わることにより、ライフスタイル学科の特徴的な学修への動機づけ・学修方法の理解、社会人基礎力の必要性を理解してもらいます。また、体験型学修の核となる学生間の人間関係の形成も視野に入れて授業を行います。

①体験型学修として PBL 型のスタジオ学修を用意する。このスタジオ学修は、学生が「無限の可能性」に挑戦する絶好の機会となる。

②スタジオ学修では、年度ごとに設定するテーマの下で、教員と学生が小グループを組織し、家政学の専門的知識・技能を活用して、創造的作業を通して考えたことを目に見える形にして提案する能力を育成する。

この学修の過程では、学生個々の潜在能力を最大限引き出していくために社会人基礎力と pisa 型学力の発揮が必須となる。

③スタジオ学修で見出した自分の能力を進路実現に結びつけるために、「キャリアデザイン講座」を配置する。この科目を通して、職業に対する意識と職場への適応能力、社会人としての自覚を深める。

④クラス指導教授は定期的に学生と面談を行い、履修状況、進路希望等を確認しつつ、適切な履修指導を行う。

⑤学修成果の評価は、学期末テストにとどまることなく、レポートや小テストなどで定期的に理解度・習熟度の確認を行う。

⑥ルーブリック評価等を用いて、評価の可視化を行う。ルーブリックはディプロマ・ポリシーの能力形成を評価できる評価内容とする。

#### (C)資格対応について

取得可能な資格は以下のとおりです。

①中学校教諭一種免許状（家庭）

②高等学校教諭一種免許状（家庭）

③フードスペシャリスト

④商品プランナー

⑤スポーツインストラクター

⑥商品装飾展示士 3 級